

会議録

会 議 の 名 称	第3回登米市上下水道事業運営審議会
開 催 日 時	令和7年12月23日(火) 13時30分 開会 15時30分 閉会
開 催 場 所	登米市役所登米庁舎2階 201-203 会議室
座 長 ( 議 長 )	会長 山田一裕
出席者の氏名	及川健一委員、及川由美子委員、熊谷毅委員、佐々木衛委員、佐藤貞光委員、千葉秀子委員、結城敦也委員
欠席者の氏名	伊藤清太郎委員、佐藤雅子委員
事務局職員職氏名	上下水道部 小林部長 高橋次長兼下水道施設課長 佐々木参事兼経営総務課長 (経営総務課) 菅原補佐、小竹係長、石堂主事、菅野又主事 (水道施設課) 高橋課長 (下水道施設課) 須田専門監、杉田補佐
議 題	1 開会 2 挨拶 3 会議 (1) 会議録署名人の選任 (2) 登米市上下水道事業ビジョン策定について 4 その他 5 閉会
会 議 結 果	別紙のとおり
会 議 経 過	別紙のとおり
会 議 資 料	資料1 登米市上下水道事業 ビジョン(素案)(概要版) 資料2 登米市上下水道事業ビジョン(素案) 資料3 登米市地域水道ビジョンからの対応表 資料4 上下水道事業ビジョン策定スケジュール 資料5 今後の審議会の予定
発言者	発言要旨
【1 開会】	
会議資料の確認後、開会を宣言。	

## 【2 会長挨拶】

本日ご議論いただきます登米市上下水道ビジョンの素案ができあがり、資料について事前に配付されたということなので、目を通していただいているかなと思います。前回概要版が出ておりましたので、その中身といいますか、どのようなことが情報としても盛られているのか、いろいろとこれからご審議いただく中で、足りないところを修正すべきところ等、忌憚なくご発言いただいて、より良い上下水道ビジョンになりますようご協力をいただきたいと思っております。本日2時間ほどの予定ですが、時間の許す限り皆さんの意見を集めて、次回に向けて準備していきたいなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

## 【3 会議】

事務局	会議に入るにあたり、審議会条例第6条第1項の規定により、会議の議長を審議会会長に努めていただくことを説明。
-----	---

### (1) 会議録署名人の選任

会長	<p>会議出席委員は過半数以上のため、審議会条例第6条2項の規定により、本会議が成立することを報告。</p> <p>会議録署名委員には、委員名簿順に従い、千葉秀子委員、結城敦也委員を指名。</p> <p>審議会の公開、傍聴及び会議録の開示掲載については、「登米市審議会等の会議の公開に関する指針」第4条並びに第7条の規定により、傍聴席の設置と会議録をホームページに掲載し、公表することを説明。</p>
----	--

### (2) 登米市上下水道事業ビジョン策定について

会長	「登米市上下水道事業ビジョン策定について」について、事務局に説明を求めた。
----	---------------------------------------

事務局	(資料1に基づき説明)
-----	-------------

会長	<p>まず委員の皆様、資料4と資料5を見ていただきたい。今日、素案の概要版を示していただき、概要版については以前確認したもの、今回修正したもの、或いはそれを素案の中にも反映されているというものをいただいた。今回はさらに修正、追加等のご意見いただいたものを、第4回の2月13日に示していただき、その場で最終調整を実施して、第5回の審議会ではパブリックコメント等も踏まえた上で、最終的には仕上がったものを答申ということになる。そうすると、今日はこの素案についてもどんどん意見をいただくということが非常に重要になってくる。もちろん限られた時間ではあったとしても、後からでも追加のご意見やご質問を事務局にする時間の確保は可能だろうと思うので、ご意見をそれぞれのお立場で出していただくということが大事である。その辺のテーマをお含みおいてご協力いただきたい。</p> <p>委員の皆様からご意見いただきたいが、範囲が広いので順番に範囲を限定していただきながら、その範囲の中でお気づきの点について、ご意見、質問をいただきたいと思う。資料の概要版と全体版のどちらでも構わないが、目</p>
----	--

次を見ると第1編「共通編」、第2編「水道編」、第3編「下水道編」あとは用語集と分かれているので順番にいきたいと思う。第1編の共通編に該当する素案の中で、お気づきの点があったらご意見をお願いしたい。

委員

資料2の1-4ページの地形の河川の部分について、「迫川、夏川が本市のほぼ中央を～」という記述があるが、迫川に関しては中央を貫いていることは間違いないが、夏川は迫川で合流して流れていく。また、「貫流」という表現がされているが、この漢字の意味もわからない。登米市全体の河川のことを言うのであれば、迫川の部分と、北上川の部分と両方の支流も入れた形で表記して、それらが農業用水とか上下水道の水源になっているという記載の方がいいと思った。それから、鱒淵川についての記載があり、確かに源氏ホタルが群生していて国指定の天然記念物になっているが、同じように南沢川のウグイの生息地も指定になっているので、同じように川が綺麗だという意味合いの記述もあっていいと思った。

会長

あまり聞き慣れない言葉なので、もう少しわかりやすい言葉に置き換えていただきたいと思う。

委員

1-8ページの交通について、最後に鉄道網の記載があるが、JR東北本線が3駅、JR気仙沼線も3駅となっているが、図面の交通網を見ると、陸前豊里駅、御岳堂駅、柳津駅のJRの鉄道が開通しているように見える。東日本大震災で気仙沼湾までの間がBRTに変わっているので、この辺も交通としての記載があってもいいと思われる。

次に1-10ページについて、第三次登米市総合計画からの出典という図面が載っている。大きな幹線道路と河川の図面が載っているが、河川については迫川と分流の旧迫川が流れている部分と、迫川がまっすぐ北上川と合流している図になっているが、旧迫川自体が小規模な河川になっているので、この図面は誤りではないかと思う。もし旧迫川が入れるのであれば、北上川に流れ出る二股川、羽沢川、南沢川があってもいいのではないか。

また、道路網について、この道路網の基準が国道を中心に細い道路が書かれている。県道レベルの道まで記載するべきではないかと思う。例えば、岩手県から錦織、東和から登米までの道路、それから登米から南三陸に抜ける道路と津山から北上町に抜ける道路など、もう少し実態に即した道路網にすべきではないか。

会長

誤解を与えそうな表現については修正をお願いしたい。

私から1-5ページの気候について、ここで年間降水量の変化等が紹介されているが、後々の防災上の問題や災害時の対応で、水インフラの課題をビジョンの中で述べなくてはいけないページが出てくる。もし可能であればこの気候は、全体的なその平均値の推移だけではなく、例えば昨今見られる1時間何十ミリという規模の短時間豪雨が降る頻度について、どのように10年の間に増えてきているのか、それが結果的に登米市の冠水被害等の様々な影響が出るのか出ないのか、そのような現状を示すような統計値、図表等方が必要であると思った。

1-7ページで産業について書かれているが、これも後々触れられてくる

	<p>部分である。その水需要の話の中で、登米市において水を多用する産業が現状としてどのような動向なのか、せつかく大口の需要家の方々もいらっしゃるの、その動向についても触れておくのが適切なのかなと思った。</p> <p>対応できるかできないのかはまた次で結構だが、要するに共通編は現状把握をする部分であるので、その現状において、後からビジョンの中で語られている上水道・下水道の対策や課題整理のときに、登米市の現状はどうなっているのか、あんまりぼんやりと全体的なことを話されても、この結びつきが弱くなってしまう。可能であれば、その問題意識を強く持てるような共通編の資料というのを目指していただきたい。</p>
委員	<p>気候の関係について、昨年温暖化による渇水の時期が数か月間あった。来年以降もこういった傾向は続くと思われているので、そのあたりも問題としてどこかに入れたほうがいいと思った。</p>
会長	<p>1-13 ページの基本理念及び目標設定について、概要版では 13 ページに示されており、結構後ろの方になっている。すり合わせをするなど、情報載せる順番について改めて確認をお願いしたい。事務局の方であえて、ちょっと後ろの方にずらしたのかなと思われるが、一緒に読んでみると少し違和感があった。</p> <p>また後で何かお気づきの点があればご発言をお願いしたい。</p>
委員	<p>2-9 ページで水質の問題については述べられているが、水量の確保という部分が載っていない状態と思う。先ほど渇水の問題もお話したが、今後の水の量的な確保について、北上川を含めて可能なのかという部分も課題かと思われる。量についての記載の必要性がなかったのか、これまでの経過を含めてお話していただきたい。</p>
会長	<p>水量を含む水源の問題について、ほとんどが北上川頼みだが、例えば今後統廃合するなどして、個別の小さな水源の問題とか、或いは北上川でも水量が減ってくる可能性も否定はできない。その点について、これから 10 年間のビジョンなので、まだ緊急の課題ではないとしても、何か気になるところがあつたら示しておいてもいいと思う。</p>
事務局	<p>委員長がおっしゃられた通り、特に今年の夏は異常な渇水に見舞われたということで、今後こういった気象状況が当然続くことも想定される。登米市の気象状況や水量などの水源の課題への対応という部分を入れることも必要だと思ったので、そこは内部の方で調整させていただきたい。</p>
委員	<p>2-10 ページの水質異常の課題の部分で、その中段にある「職員の技術力が低下する中～」という表記について、今のベテランの人たちがいなくなった場合、その後の職員の技術が劣るのではないかという意味だと思うが、このような直接的な言い方でいいのかと疑問に思う。今の 20 代、30 代の人たちの今後のやる気に関わるのではないか。「専門職が少なくなる」といった記述にしてはどうか。もう少し柔らかい表現で、実際に業務されてる方を傷つけるような表現は避けた方がよいのではないか。</p>

会長	<p>委員ご指摘のところについて、私も表現としていかがかなと思った。2-16 ページの課題の文中にも同様の表現があるので、置き換えるなりの工夫をしてもらいたい。</p>
委員	<p>2-11 ページの施設の老朽度、耐震性の状況の中で、調査結果における今後の対応方針が①番から④番に分かれているが、現状でこの施設は①番、この施設は②番といったような、該当する施設をそれぞれの番号に例示することはできないか。</p>
事務局	<p>次の2-12 ページでは、使用が困難、数年以内に対策が必要、当面は対策が不要という形で表記している。前のページを見ていただくと、①の使用が困難、②が数年以内に対策が必要、③は当面の対策は不要という、表現方法は少し違うが、内容的には①、②、③という形で分けることが可能なので、もう少し見やすくなるような形に改めたい。</p>
会長	<p>1つ2つで構わないので、こういう状態だというのが、検査の結果などを用いて写真などで明示されていれば、我々も目視でわかりやすいビジョンになるかと思った。その辺の表現の工夫をお願いしたい。</p>
委員	<p>2-14 ページの図表 41などを例に、図表の中に文字が結構細かく書いてあるが、細かすぎて読めないものがある。多分こういうもの見る若い人は少ないと思うので、若い人でなければより見づらいと思われる。もう少し見やすいようにしてはどうか。</p>
会長	<p>原図があるのは重々承知するが、端折ってもいい文言などもあると思うので、できるだけスペースを空けて文字が大きくできるような、工夫をしていただければありがたい。</p>
副会長	<p>2-26 ページの課題の部分で、脱炭素化への取組として説明されているが、その意図するところは、改善に向けていくことは難しいという意味で挙げたのか、その意味合いをお聞きしたい。別の審議会では、太陽光パネルを200 か所、10年で2,000 か所分ほどを購入するというようなお話があったが、10キロワットのパネルというのは、一般家庭の屋根に設置するタイプのもの1枚分ぐらいとのことだった。大した電力が出るものではないと思われるが、200 か所設置するとのことだったので、意図するところは自然エネルギーを活用したいのだと察するが、市としてどれだけ力を入れて取り組むのかということを知りたい。水道事業の中で脱炭素化への取り組みというのはなかなか難しいと考えられるが、どういう意味合いで課題の中にこれを入れたのか教えてもらいたい。</p>
事務局	<p>登米市全体としての大きな取り組みの中で、上下水道部としてどういった取り組みができるのかということで整理させていただいている。例えば、上下水道部では大きな敷地などを所有しているので、太陽光発電やEV関連の設備の整備など、この10年計画の中で脱炭素に向けて取り組めるところに</p>

	<p>については取り組んでいくという意味合いで、こういった表現させていただいた。</p>
会長	<p>事業運営の様々な経費の話をしている中で、そういう設備投資ができるのかどうか。発電事業はこの水インフラの経営とはちょっと別物だと思う。敷地を貸すことで、市の再生可能エネルギーの導入について全域的に取り組むことができるのであれば、願ってもないことだろうと思う。今後検討していくのだろうと思われるが、これをやるということは、今抱えているアセットマネジメントの中にどういうふうに盛り込まれるのかなど、そういう心配が出てくるので、その辺の表現は誤解がないように示しておいていただければいいなと思った。</p>
副会長	<p>課題ということでの記載だったので、その取り組みはなかなか難しいのかなと思った。その辺の意味合いがどういうことかによって、課題の中に市が進めるこの取り組みをなぜ入れたのかという点について指摘せざるをえないと思って質問した。</p>
会長	<p>上下水道部が主導するのか、市の事業に協力していく立場なのか。「進めていく」という言葉だけだと、どうしても主体的に見えてしまうので、本心としてはどうなのかなというところも確認したい。</p>
事務局	<p>あくまで登米市の設定できる方針の中で動いているので、この中で上下水道部の中で何ができるか、何に参画できるかっていうことを言いたかった部分だが、表現的に独自に何かをしていくのかという形で読まれる方もいらっしゃると思うので、その表現は工夫させていただきたい。</p>
会長	<p>今のところと重なる部分もあるが、冒頭に第三次登米市総合計画があり、この総合計画の中で上下水道部が中心となる事業と、この計画の中で示されている他の事業とがリンクするところもたくさんあると思う。例えば、今の再生可能エネルギーの導入についてもリンクしてくるが、その部分で市の全体の事業としてもあるし、上下水道部のみでやる事業もあると思う。外部も巻き込んでやらなくてはいけない事業については、この総合計画を踏まえて、どのように何年間進めていくとかの文言のフォローをしておかないと、単独でやるのかどうなの分かりにくく、間違ったメッセージになってしまうようになると思う。</p> <p>2-14 ページについて、先ほど図表 41、排水系統フロー図の文字が見にくいというのもあるが、色分けがされている色の意図がわからない。せっかくカラーで載せられるので、その意図が伝わるような注意書き等を入れてもいいかなと思う。ただ載せればいいのかというのではなくて、ここから読み取っていただくことが大事になってくるので、ご配慮をお願いしたい。</p> <p>そして、この図表 41 と直接の関係はないが、水道だけではなく下水道でも、人口減少に向かう中で統廃合計画やダウンサイジングなどのインフラの整理を進めていく上で、削減可能な経費というのは出てくると思われるが、その試算はどれくらいされているのか、或いはなかなか難しいのか。関連するページで言うと、2-27 ページにアセットマネジメントの傾向がある</p>

	<p>が、ここで示されている削減額はそういったダウンサイジングも込みの中の評価なのか。読んでいるだけでは分からなかったので確認したい。</p> <p>この部分はこのビジョンの中ですごく大事なポイントだと思われる。要するに、ダウンサイジングを進めていくと、地域によってはご不便をかけるようなエリアが出てくる。しかし、ご不便をかけるけれども、それができるだけ軽減化されて、なおかつ財政的にも経費が浮いて、財政的にも水道経営の安定化を図ることができるという、そのメリットをアピールしなきゃいけない。しかし、その効果をきちんと示せているかどうか危うかったので、確認をお願いしたい。</p> <p>2-19 ページの図表の 51 について、赤の折れ線グラフが類似団体の平均値だけで、登米市の棒グラフが「0」で表示されていない状態だが、これだけだと違和感がある。何か工夫のしがいがあればお願いしたい。</p> <p>2-30 ページと 2-32 ページの図があるが、図表番号があつたりなかったりするところがある。写真の箇所はともかく、何か意図するものがあったのか。</p>
事務局	<p>あくまで図表という形の表記について番号を記載していた。写真は図表というものではないということで記載していない。</p>
会長	<p>2-30 ページの図や 2-32 ページの 4 R の表と思うが図表の番号の記載がない。付いているものと付いていないものがあるのはなぜなのかなと感じたので、統一した方が読みやすい。</p>
事務局	<p>再度確認させていただく。</p>
副会長	<p>1-6 ページについて、2-3 ページのところに課題として、「人口減少に伴う、水需要の減少」という記載があり、人口動向については注視しなければいけないと書いてあるが、この人口統計のデータについて、令和 2 年度時点のデータは出ているが令和 6 年度のものとは分からないのか。国勢調査は、これが一番新しいデータなのか。この人口の減少というのは、水道料金の跳ね上がる 1 つの要因なので、課題として出している以上はその人口統計の一番新しいところで計上したほうがいいのかと思う。</p>
事務局	<p>ご指摘の通り国勢調査の数値を採用しており、最新のものについては今年度実施されているので、今回の結果を踏まえて集計が出るのは来年 10 月頃になるので、この議論に国勢調査の最新の数字を反映させることはできない。</p>
会長	<p>国勢調査ではないにしても、何か調査の速報値などはないのか。質問の意図としては、これから 10 年のビジョンを考える上で、直近の最新のデータを使わずに議論していいのかと疑問があつてのことだと思われる。使えるデータがあるなら、図表でなくても文章中に盛り込むとか、そういう工夫があつてもいいのではないかとのご指摘だと思う。</p>
副会長	<p>下水道に限らず、人口の減少というのが大変進んでおり、特に昨今は特に</p>

	<p>変動が激しい。基本計画の令和 17 年度までの 10 年計画の中で、令和 10 年くらいには 5 万 8,000 人になる。しかしながら、大学生とか専門学校生徒が登米市に在籍していても、本人は仙台や東京の方にいる。そうすると最悪 5 万人程度くらいの想定が成り立ち、合併当時からすると半減ということになる。それくらいの想定値の中で早く考えていかないと、なかなか難しい状況になるので、極力新しいデータを基にしたほうがいいのかなと思い、発言した。</p>
会長	<p>当然、上下水道それぞれの料金改定の時など、直近の最新データ使うというのは問題ないが、せっかくビジョンとして 10 年間のものを示すときに、その発行の 5 年も前のデータで何か物を語っているというのは、市民の方々も疑問に思うのではないかと。その辺は工夫をしていただければと思う。</p>
事務局	<p>先ほど 2-27 ページのアセットマネジメントについてご質問いただいた関係のところ、回答させていただきたい。目標使用年数で更新した場合、今後 50 年間に必要になる経費を 1,315 億円まで削減できる見込みと記載しておりますが、これは水道管の更新と施設の統廃合を全部含んだ数字であると確認できた。</p>
会長	<p>全体の文脈も踏まえて検討してもらえばいいが、ダウンサイジングによる効果を経済的にちゃんと示しておいたほうがいい。もちろんトータルとしては問題ないが、ダウンサイジングという設備の整理と、管路の更新は次元が全然違うのではないかと。ここでは市民の方々も、今後この上下水道の運営がどういう形になっていくのかが目に見えてくる。そこは経済効果をしっかりと示したほうがいいと思う。これはあくまでも 1 つの意見として聞いていただければと思う。</p> <p>下水道編 3-12 ページに、所々で浄化槽の話が出てくる。登米市内に単独処理浄化槽というのはもうないのか、それとも稼働しているものもあるのか。</p>
事務局	<p>単独について言えば事業の整備がされていて、まだまだ使われている方もいるかと思う。詳細な数の把握はできていないが、実態として残っている。</p>
会長	<p>下水道、生活排水対策で、9 割弱ぐらいの方々がもうすでに生活排水対策として浄化槽なり下水道へ接続されている。つまり残りの部分で、くみ取り以外のパーセンテージは、単独処理浄化槽であるという認識で問題ないか。</p>
事務局	<p>お見込みのとおり。</p>
会長	<p>既に売っていないし整備されるものではないので、使われているものの次の更新はないという認識だが、単独処理浄化槽がまだ使われていることによって、ビジョンを進める上での弊害はないか。</p>
事務局	<p>今回、これは中期計画の第三次総合計画の方でも汚水衛生処理率という目</p>

	<p>標値を定めているが、そういった数値を上げていくためには当然そういったものの切り換えが必要になってくると思う。ここには合併処理浄化槽しか記載がないが、今後その数値を上げていくための戦略としては、そういった視点も必要かと思った。</p>
<p>会長</p>	<p>単独処理浄化槽をお使いのご家庭には、合併処理浄化槽への切り換えを進めていくとか、1行でも入れておくといいかなど思った。</p> <p>他には、時々「啓蒙」という言葉が出てくるが、最近あまり使わないのではないかと思うので、「啓発」に改めてはどうか。上から目線というニュアンスになってしまう。</p> <p>今週末ぐらいからパブリックコメントにこの素案が公開される予定だったかと思うが、ケアレスミスも多いのでずらせるならそうしたほうがいいのか。もう少し修正された後の方が、市民の方々も読みやすくなるのではないか。3-8ページ等で浄化センター計画処理能力や敷地面積の単位で、立方メートルになっていないところがある。平方メートルのところは2乗になってないなどの単純なケアレスミスが時々見える。他には3-14ページの図表88の折れ線グラフ、これは恐らく約386キロメートルかと思われる。3-20ページについても線の入れ忘れなど、こういうところを丁寧に見ていただきたい。</p>
<p>副会長</p>	<p>1-9ページについて、都市的連携エリアとして様々な地域が出ているが、ただ実際には商工事業所ベースで、営業所数は20年前の半分になった。今後どうなるか分からないが、このエリアだけに期待をするというのもなかなか難しい面があるかと思う。これに記載するのは構わないが、その期待通りに都市的連携エリアというのが機能するのか疑問がある。期待できるだけのものがあると、市の方で情報を持っているのか。</p>
<p>会長</p>	<p>今ご指摘のところで、第三次総合計画の中に、都市的連携エリアの中の活性化に向けて何か位置付けがあるのであれば、そういうものも紹介していただいた方がビジョンとしては理解されやすいと思う。要するに、総合計画でやろうとしているところに、上下水道部としてそこに絡んでやっていくのかどうか、関わり方が示されている方が分かり易い。</p>
<p>副会長</p>	<p>これは市全体の課題でもある。本来であれば、こういう都市エリアの連携を期待されるような経済活動が活性化すればいい話だが、水道単体だけでこれをやろうと目標値を掲げると厳しいものが出てくるのかなと思ってお尋ねした。</p>
<p>会長</p>	<p>3-16ページ、下水汚泥の有効利用について書かれているが、これは有料で販売されているのかどうか確認したい。また、この事業を委託して民間の方にやっていただいているような記述が後半部分にあったが、これによって会計上でプラスになるということはないのか。そういうことがあれば、積極的に下水汚泥の有効利用を図って、できるだけ経費を削減できるように努力していきたいというビジョンが見えてくるような気がする。</p> <p>3-17ページの課題の中に、汚泥の処分有効利用民間事業者に「依存し</p>

	<p>ている状況です」と書いてあるが、よく分からなかった。「依存している」とはどういうことか。</p>
事務局	<p>下水の汚泥については、3-16 ページにある処理場ごとに太平洋セメントや三菱セメントさんの方に持って行って、焼却などお金を払って処分してもらっていた。それで3-17 ページについては、公共下水道以外の一般廃棄物と言われる浄化槽の汚泥や、農業集落排水施設の浄化槽の大きいものに係る汚泥は、エコランドというところで「タンピくん」という肥料を作って販売していると記載させていただいている。公共下水道についてもお金を払って焼却やコンポスト化をしているが、これからについてはエコランドと同じような形で進められていければと思う。</p>
会長	<p>委託して、処分費を払って処分していただいているというのは、下水汚泥が産業廃棄物だからということだと思うが、その解釈を変えられないとできないという理解でよいか。</p>
事務局	<p>宮城県も同じような苦勞されている。県も公共の部分については産業廃棄物の重金属の検査をして、一定基準以下だということを確認して堆肥化を進めていきたいということだった。それと同様に、市の公共下水道でも広域連携などの形で進めていけたらと考えている。</p>
会長	<p>3-16 ページの文章を読むと、浄化センターの方で積極的に汚泥の有効利用を図っていて、本来なら下水汚泥の処分費を払わなきゃいけないところだがその経費が浮いているというふうに見えてしまう。現実としては処分費を払って、民間でそのように扱ってもらっているという内容である。有効利用はされているものの、市としてはそれにお金払って作らせているということになる。悪いことではないが、期待としてはその売上げが市に還元されること、或いは有効利用によって処分費用が削減できることだと思う。そこにどのように寄与していくかということ考えないといけない。何となくこれだけ読むと、いいことをやっているから続けて、実は経費は全然減っていませんという、ビジョンとしてはいかがなものかという内容である。その解釈の間違いがないようにご配慮をお願いしたい。</p> <p>3-23 ページに、耐震化をはじめとする災害対策の推進が課題だと記載がある。これはビジョンの中に反映させてほしいということではなく一応の確認程度だが、つい先日、青森県沖の大きな地震があったときに、登米市の辺りも震度的には結構大きかったと記憶をしている。その時に何か不具合というのは起きなかったのか。</p>
事務局	<p>12月9日の青森県沖地震については、その日のうちに施設を確認した結果、漏水や上下水道施設の故障などは見られなかった。</p>
会長	<p>記憶に新しい災害があったときに、登米市は大丈夫だったというメッセージがあってもいいのかなと思った。</p>
委員	<p>3-24 ページについて、「職員減少が想定される中で職員の技術確保法や</p>

	<p>補完する仕組みの導入が必要となります」となっているが、具体的に何か仕組みを考えていることはあるのか。</p>
事務局	<p>3-49 ページ上段の方に、スキルアップ等を目的とした各機関での研修、部内での技術面の強化、研修の参加促進について記載している。(2)では、官民連携や行政のDXの推進、下水道台帳システムの管理情報データの更新・整備等について記載している。</p>
会長	<p>今のところ、特に載せる情報として、個別のプログラムとかメニューを紹介することはできないということか。これはこれで分かるが、ざっくりとしているので何か具体的にないのかというご指摘だと思う。</p>
事務局	<p>当然具体的には様々な研修があるが、ビジョンということで大きい枠組みでの記載になっている。</p>
委員	<p>補完する仕組みの導入、研修等の参加を促進しますという書き方より、具体的に書いたほうがより分かり易いと思う。文章だけを読むと、どういう仕組みなのかと率直に思うので、DXの導入や、技術継承のための研修を促進しますとか、そういうことを書いてもいいのかなと思った。</p>
会長	<p>すべてではないにしても例示くらいの形にはしてもいいと思う。コラム的な形で課題と解決策を書こうという意図だというのは承知しているが、これは、このビジョンによってその課題をどのように克服していきたいかが、文章を全部読まなければわからないような書き方になっている。ここを読めば分かるか指定していただくと分かり易く、それをトータルで考えると言っている意味がより分かるようになる。それぞれコラム的に書いてある課題は、今後このように対応しますということがこのビジョンの本文の中に書いてはあるが、この課題だけ見て、どこを読めばその答えに通じるか分りにくかった。その辺の表現もうまく説明するか、ビジョンの冒頭部に、ページで示してある課題の対応については本文中で説明しますとか、何かフォローを入れておいた方がいいと思うので、工夫してみてください。あまりボリュームが大きくなるのは好ましいとは思わないので、簡潔に伝わるようにお示しただけであればいいと思う。</p> <p>下水道編も含めて、用語集のところでは何かお気づきがあれば、教えていただきたい。用語集は上手くまとめていただいたと思う。本文を読んでいて、所々で用語を確認しながら、適切に読めたと思う。</p> <p>2-30 ページに推進する実施方策が示されている。これは、上下水道トータルでの実施方策としてのまとめだろうと理解している。これはこれでまとめられているので問題ないが、今までの経緯の中で、上水道と下水道それぞれで様々な計画や方針を立てて、考慮して、今回初めて統合的にこのビジョンを立ち上げる上で、その上下水道が一体となって推進していく。この一体となった運営というのがどういう効果をもたらすのか、ということをもっと強くコメントできないかと思って読んでいた。「これは上水道ではやっていて、こっちは下水道ではやっていないが、それは問題ないのか」など、それぞれの今までやってきたことを単純につなげるだけでは、このビジョンが</p>

統合化されたとは言にくいと思う。例えば共通する問題として、管路から水道水や汚水が漏れ出てきてしまうということがあったとして、同じような管路の損傷に対して、上下水道一体となってどういう取り組みをしていくのかとか、そういうことがあまり感じられなかった。もちろん水の質が違うので同じ工事はできないが、そういう問題が起きたときに、上下水道共に耐震性が弱くて同じような被害が出ているのであれば、上水道と下水道で別々に工事計画を立てるのではなく、一緒にやっていかなくてはならないのではないかと。これはコストも掛かってくるわけで、そういう考え方を文書の中で盛り込んでいただかないと、何が統一されたのか市民の方々には伝わりにくいなと思った。これが一緒にはできないのは、私が水の専門家だからよく分かってはいる。例えば水質の分析についても、下水処理場と上水道の浄水場でやっている分析を一緒にやってみればいいのでは、とならないのかと。これは、専門的なこと言うとやってはいけない。これは当然分けなきゃいけないけど、統合するっていうのは、今までの同じような作業を何とかコストを下げのためにうまく効率的に体制を整える、或いは資材の共通化を図るといったことをどんどん進めていくものであると思う。それが文章の中でどれだけ反映できているのかというのが残念ながら、私の読んだ範囲ではあんまり感じられなかった。うまくまとめているけれども、何か別々にやっているという感じしか見えなかった。私が違った見方をしているのだったら申し訳ないが、そういった点についてはどのように感じているのか。

事務局

最初の策定の目的や老朽化などの共通課題に対して、一緒に取り組むことによってコストも上がるが、そういった維持管理の部分に対してダウンサイジングや統廃合というメリットも多く出てくるので、本来であれば目的の中で目指す方向については、もう少し分かりやすく書くべきだと改めて感じた。その辺を少し整理させていただきたい。

会長

要するにもう少し強調して欲しい。そこは控え目にではなくて、この統合化されたビジョンが市民の方々にもう少し分かり易く伝えられるように、強調すべきところはもう少し言葉を拾って表現してもらいたいなと思った。真面目に書かれていたと思うが、どこがポイントなのかが見えてこなかった。

それに関して確認だが、3-51 ページに書いてある宮城県下水道広域化共同化計画、広域連携の運用について、下水道の方は示されているところだが、上水道の方では周辺自治体との協力関係について、情報提供はしなくて良かったのかなと思った。それによって、経験不足な方々の専門的なスキルや知識の向上、或いは人材が足りないところで周辺自治体と協力し合ってその穴埋め補充ができるとか、今抱えている課題解決にも広域連携のあり方っていうのはすごく大事だろうと思うが、その辺が水道の方にあまり書かれてなかったので、気になっていた。

委員

2-38 ページについて、マニュアルの見直しとか災害訓練の実施ということで、いざというときに上下水道一体での対応を検討しますという記載がある。また、東日本大震災のような災害時に水道自体が止まった状態のときには、新田配水池が給水拠点になるという形で書かれているが、こういった

	<p>給水拠点をこの中に明記することによって、そこへ行くと水が供給してもらえるよというような、住民の方がいざというときに安心感を持てるようにした方が良いのではないかと。そこへ行くと水が供給されますというようなことが強調されてもいいのではないのかなと思った。</p>
会長	<p>情報提供のあり方の話なので、その辺のバランス見ながら盛り込めるものはぜひお願いしたい。</p>
委員	<p>今後の水道事業の中で、水を蛇口ではなくてペットボトルで供給するというのは可能なのか。備蓄品で水のペットボトルを、5年から10年ほど各総合支所などで備蓄していると思うが、地元の水をそのような形で使えないものなのか。そのための設備投資で費用は掛かると思うが、その辺の検討はしたのか。</p>
事務局	<p>15年以上前になるが、ペットボトルの製造等は一度検討したことがある。市内の水と米と一緒に販売できないのかなどと検討したこともあったが、水一本あたりが一般的に約100円、物価上昇を考慮しても110円ほどだが、市で製造すると一本当たりのコストが120円から140円ほどかる。販売ルートもないということもあり、費用対効果の面で弱いことから断念をしたという経緯があった。仙台市や、大崎市でも実際に販売しているので、今後そういった機会があれば検討させていただきたい。</p>
会長	<p>ペットボトルという形で災害時のために貯水しておいて、被災された方々にお配りするようなケースで使えるものとして、日頃から作っておくという考えはないか。販売のコスト云々の問題ではなく、災害対策としてそういう消耗品の準備は必要ないのかという質問だったかと思う。</p>
事務局	<p>災害時の備品等は防災部局の所管なので、連携しながら検討させていただきたい。</p>
会長	<p>個人的には、大萱沢浄水場緩速ろ過池の水道水は飲みたいという気持ちになる。県内でも数が少なくなってきた良質な水が得られる処理方式が、未だに稼動しているっていうのは財産だと思う。山の水の恵みを皆さんにも提供しますよという宣伝で、登米市の水道の技術や、或いはそういう財産について、もっと広報に使ってもいいのではないかと個人的には思っている。機会があればぜひ検討してほしい。</p> <p>今様々な方々の意見や質問があって、また追加でご質問が出る可能性もあるが、いただいたご意見を次回に向けて反映させる場合、事務局としてはいつごろまでならその修正が可能か。</p>
事務局	<p>パブリックコメントが始まった後でも、来月の中旬ごろまでであれば委員皆様からいただいた意見等を含めて、次の審議会までに修正することは可能だと思われる。</p>
会長	<p>承知した。パブリックコメントのスケジュールで見ると、1月26日の月</p>

	曜日までになっているので、この辺りを目途としてよいか。せっかくの機会なので、とにかくどんどん出してもらえようご協力のほどよろしく願いしたい。
【4 その他】	
今後の審議会の予定について	
会長	「今後の審議会の予定」について、事務局に説明を求めた。
事務局	(資料4に基づき説明を行う)
【6 閉会】	
副会長	<p>本日は長時間にわたりましてご審議いただき、ありがとうございました。大変多くのご意見が出まして、感謝を申し上げます。</p> <p>登米市は平成の大合併で9町が合併しました。インフラもそれだけ広大になったわけでございます。当初から見れば40年50年このインフラ整備にいつかは本格的な施策を打たなければいけないという中で、これまで来たわけでございますが、いつの日か必ず、全部のインフラを再検討する時期が来ると思います。これは誰が行政の長をやろうが、同じ課題がこの登米市に突きつけられる時代が来ると思いますけども、これは、担当職員だけがとかではなくて、やはりこれから登米市民一人一人がやはり課題を持って、取り組むべき課題かなと思っております。ただ、これから若い世代の方々のことを思うと少しでもリスクを減らして、若い方が住みやすいまちづくりに、向かうのが、登米市の方向性だと思いますので、職員の皆さんも大変だと思いますけども、今後とも頑張っていたきたいと思っております。</p>